

令和2年度第2回（第5期第3回） 新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和3年3月19日（金）午後2時～4時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委員：植田、遠山、長山、笠井、松尾、横倉、青木、富田、望田、太田、遠藤、友成各委員
事務局：菅野文化観光産業部長、村上産業振興課長、出沼産業振興係長、吉田産業振興主査、江下主任

【欠席者】 なし

【傍聴者】 2名

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

- (1) 前回会議の振り返り
- (2) 令和3年度新型コロナウイルス対策事業について
資料2に基づき、事務局より説明した。
- (3) コロナ禍を機とした産業振興プラン施策の方向の確認について
資料3に基づき、事務局より説明した。
- (4) 第5期報告書骨子（案）について
資料4に基づき、事務局より説明した。
- (5) 第二次実行計画の策定及びパブリックコメントについて
資料5に基づき、事務局より説明した。

3 主な発言内容

- ・基本目標に掲げられた「革新と創造に取り組む企業の集積と持続的に発展する産業システムの形成」という点ではコロナがあっても変わらない目標であるし、そのもとで区内企業が事業革新や価値創造に取り組んでいかなければいけない。環境は非常に厳しくなったが企業や創業者が地域で増えているということもある。来街者という点では、リアルに来街者だけでなくネットやリモート等での来街者も含めて新宿に関心を持つ人が増えることが大事。施策の方向性についても産業振興プランに掲げられた内容は基本的には大事だが、方法や中身は検討していかなければならない。状況が大きく変わる中で、新宿の魅力や強みが何なのかはコロナ禍において改めて考えていかなければならない。
- ・自身が運営している博物館はコロナの影響で客がほとんどゼロになったが、木材や時計に江戸小紋を染めたり、床に敷くタイルに江戸小紋を染める研究をしたりコロナ禍でも積極的にビジネスを展開している。
- ・Web交流会は民間でも実施されているが、どこも手探り状態で参加する側も交流会に期待するものがまちまちである。区がどういう手法で行ったか、どんな議論が展開されたかをメールマガジンなどで紹介することによって一つの新宿モデルが形成されると良い。
- ・日本の印刷業界は高い技術を持っているのに印刷業界でマイスターに認定されている人は少ない。自分の会社の足元を見つめ、自分の強みを発見し、営業していくことが重要である。
- ・融資量を増やして収益を上げるという金融機関のビジネスモデルが完全に崩壊している中でどのよう

に収益力を上げていくかが問われる。コロナ禍で融資量はかなり増えたが2、3年後には不良債権という形で出てくるだろう。縮小していく市場の中で生き残るためには量より質を求めている人たちのニーズを全体で連携して探っていくことが必要。

- ・旅行会社は、GOTO トラベル事業に振り回された。GOTO トラベル事業は大手にとってはうま味があるが、中小企業は手続きばかりが煩雑でこの事業から撤退している状況である。観光業は交通、宿泊、飲食など様々な業種にかかわるので、みんなで生き残っていく道を考えたい。
- ・パソコンやルーターを導入するための助成金はあるが、インフラが整備されてもそれを使って何ができるのか、どうすれば良いのかわからない。区がノウハウを発信するかセミナーを開催するか、またはセミナーを開催しているところを発信するなど何らかの形で、ワンストップで支援情報を提供していくのが良い。
- ・一口に新宿といってもいろいろな場所があり、一括りにはできない。地域地域に合ったやり方を見つけることがアフターコロナの対応になっていくのではないかな。
- ・コロナ禍の状況でこそ新宿区の特徴が逆に浮き彫りになってきているのではないかな。もう一度、新宿区の産業とは何なのかを問い直すのが良いのでは。経済原則とは別に新宿区の産業論から考えたときに何があろうと残すものは何か、この機に変えるべきものは何なのか。それを浮き彫りにするチャンスではないかな。
- ・女性が古本屋に立ち寄ってもらうためのアイデアとして、しおりに良い香りをつけてノベルティとして配布し、各店舗の PR を行うことを提案したい。こういった話題作りが雑誌に一回載るだけでも足を運んでみようという人が多くなると思う。様々な企画をしながら新宿区が安心安全な街、コロナに関しても対策を練って来街者施策に向けて頑張っているということをアピールしていきたい。
- ・新宿を空間=スペースとしてとらえるのではなく、場所=プレイスしてとらえて、アイデンティティを考えられるような人を増やしていくことが新宿の魅力向上にもつながっていくのではないかな。新宿に関わりを持つ、新宿に何らかの関心がある人が集うオンラインサロンのようなものがあったら良いのではないかな。
- ・来街者やインバウンドが消滅、蒸発してしまった状況で経済を回すには、域内で付加価値を生むための材料をよそから持ってきたり、よそへ販売したりするのではなく、域内から調達して、域内で消費するという域内経済の循環をより一層構築していく必要がある。こうしたことを今一度見つめなおして構築するチャンスなのではないかな。

4 次回日程について (予定)

産業振興会議

日 時：令和3年6月

会 場：B I Z新宿

5 閉 会